

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

今日は、国連が制定した「国際女性デー」。世界中の女性の権利を守り、社会参加を願う記念日。イタリアでは、この時期に開花するミモザが「国

際女性デー」のシンボルで「ミモザの日」と呼ばれている。ミモザは丸く可憐な黄色の小花が咲く。男性が大切に思う女性にミモザの花束を贈る習慣があり、日本の生花店でもよく見かけ、見る人にふわりと春を運んでくれている。

色に対する心理的解釈が国により異なる事を知る機会があった。日本では「平和や初心者」をイメージする緑色が、フランスでは「犯罪的」、中国では「不誠実」。赤色はアメリカで「情熱」、中国で「幸運」だが、エジプトでは「死」のイ

メージだと。国際的観点から創造する地域の一人一人が「色」に関する知識を学ぶ事は大切な。色の使い方による、日本古来の美観を失う事が無いように配慮しながら外国から訪れる皆さんが不快に思

われないような配色の知識は今後求められていくのだろう。毎日世界から伝わる悲惨な紛争現場の状況に心が痛む。スウェーデンのウプサラ大学が運営する「ウプサラ紛争データプログラム」によると、2021年

地域で何を学ぶかが問われている

の国家が関与する武力紛争の数はロシア・ウクライナ戦争、ミャンマー内戦、シリア内戦、クルド・トルコ紛争、アフガニスタン紛争など54件。これ以外にも国家が関与しない紛争や暴力が多数報告

されている。毎日届く知人の加藤和郎さんからの情報に、長田弘の詩「世界はうつくしいと」が荒んでいく心への糧になる詩だと、読んでそう思わずにはいられなかった。皆さんに紹介したい。

「いつからだろうか。ふと気がつくとうつくしいということばを、ためらわず口にすることを、誰もしなくなった。そしてわたしたちの会話は貧しくなった。・・・一体、ニュースとよばれる

日々の破片が、わたしたちの歴史と云うようなものだろうか。あざやかな毎日こそ、わたしたちの価値だ。うつくしいものをうつくしいと言おう。」と詩は語る。美しいと語れる自然豊かな大北地域に暮らす私たちは幸せだ。美しいものを、美しいと



2月下旬の国道148号線佐野地籍の排雪作業。降雪の少なさを実感する

言える時が、荒んだ心への復興になるに違いない。その積重ねの「日々是好日」を実践できる地域づくりが、ますます困窮する社会の中で求められる地域になるに違いない。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)